

新専門医制度 内科領域

神戸市立医療センター 中央市民病院

内科専門研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	P.1
専門研修施群・・・・・・・・・・・・・・・・	P.21
専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・	P.81
専攻医研修マニュアル・・・・・・・・	P.83
指導医マニュアル・・・・・・・・	P.90
各年次到達標・・・・・・・・	P.92
週間スケジュール・・・・・・・・	P.93

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『内科研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

神戸市立医療センター中央市民病院

内科専門研修プログラム

目次

理念・使命・特性

1. 募集専攻医数
2. 専門知識・専門技能
3. 専門知識・専門技能の習得計画
4. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス
5. リサーチマインドの養成計画
6. 学術活動に関する研修計画
7. コア・コンピテンシーの研修計画
8. 地域医療における施設群の役割
9. 地域医療に関する研修計画
10. 内科専攻医研修（モデル）
11. 専攻医の評価時期と方法
12. 専門研修管理委員会の運営計画
13. プログラムとしての指導者研修
14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
15. 内科専門研修プログラムの改善方法
16. 専攻医の募集および採用の方法
17. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

- 1) 本プログラムは神戸市の一次から三次救急までを担う中心的な急性期病院である神戸市立医療センター中央市民病院を基幹施設として、市内および近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て、神戸市ならびに近隣の医療事情を理解し、病病連携や病診連携を基とする地域の実情に合わせた実践的な医療を行うとともに、基本的臨床能力獲得後はより高度な専門性の高いサブスペシャリティ研修にスムーズに移行することで、地域医療を支えながら医師としてのプロフェッショナルリズム、そしてリサーチマインドを兼ね備えた高度の専門性を有する内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）または4年間（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。特に当院では神戸市最後の砦としての24時間365日の救急診療を特徴としており、総合内科（膠原病・感染症を含む）でのプライマリ・ケアと合わせて内科の幅広い疾患群を順次経験していくことによって、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります。さらに連携施設での研修により病院や患者の地域差や病病連携の重要性、急性期のみならず慢性療養やリハビリテーションまで含めた地域全体で完結させる診療の全体像を学習することができます。
- 3) 当院内科系サブスペシャリティ診療科はこれまで豊富な症例をベースに多数の臨床研究、症例報告を行ってきており、内科専攻医がこれらサブスペシャリティ研修に早期から触れることにより、リサーチマインドを涵養し、当院学術支援センター援助のもと、積極的な学会発表、論文発表が可能となります。

使命【整備基準 2】

- 1) 神戸医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、（1）高い倫理観を持ち、（2）最新の標準的医療を実践し、（3）安全な医療を心がけ、（4）プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民に生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、神戸市の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター中央市民病院を基幹施設として、神戸医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療が行えるように訓練されます。研修期間は3年間（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）、または4年間（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）になります。
- 2) 基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院の内科系診療科は、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科・緩和ケア内科、総合内科（膠原病・感染症を含む）の9科で構成され、これらを最初の1年間で必要に応じてローテートすることで、内科専門医に必要な救急を含めた13内科領域全般を網羅できる体制を構築します。症例経験のみならず「技術・技能評価手帳」に定められた基本的技術の習得も目指します。
- 3) 本プログラムでは基本的には初期臨床研修を修了した内科専攻医が希望するサブスペシャリティを選択し、最初の4ヶ月間はそのサブスペシャリティの基本診療経験と技能の形成にあたります。その後初期研修時の経験症例数によって当院内科系診療科9科のうち、選択した科を除く8科のうち必要な診療科を1ヶ月ごとにローテートしながら主治医として入院から退院まで経時的に診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。さらに内科カンファレンス、CPCにも関わり、広く内科全般の知識習得にあたります。また、希望すれば、総合内科で週1回の内科初診外来を3ヶ月以上行うことも可能です。初期1年間（専攻医1年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医2年修了時点（4年コースの場合は3年修了時点）で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます。
- 4) 基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院は神戸市の中心的な急性期病院であり、高度医療も合わせ持った24時間365日神戸市民最後の砦として地域の病診・病病連携の中核であります。一方、地域に根ざす第一線の病院でもあり、1年以上ローテートする他の連携施設とあわせてコモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携も経験でき、地域医療の中での内科専門医としての役割を実践します。
- 5) 専攻医3年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、J-OSLERに登録できる体制とします。そして可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします。

専門研修後の成果【整備基準3】

- 1) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリティ専門医：神戸市立医療センター中央市民病院はあらゆる診療科でコモンディジーズから希少疾患まで多くの症例経験が可能であり、サブスペシャリティ専門医取得要件を満たす研修施設です。総合内科を含む当院内科系のサブスペシャリティ9科を合計12ヶ月受け持つ中で、ジェネラリストの視点から高いレベルの内科系サブスペシャリティ専門医もしくは内科系総合診療医へとスムーズに移行できます。
- 2) アカデミズムを追求できるサブスペシャリティ専門医：当院では内科カンファレンス、CPC

以外に内科系サブスペシャリティ科における臨床カンファレンス、外科系関連科とのカンファレンスが多数開催されており、学術支援センターの援助のもと、臨床研究や学会発表、論文作成のバックアップ体制が整っており、将来的な博士号取得や大学院進学、留学などへの足掛かりとすることができます。4年コースでサブスペシャリティ研修を積むことで内科専門医取得後引き続きサブスペシャリティ専門医受験をすることが可能です。

- 3) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対して豊富な症例経験ができ、救急科や集中治療科との連携によってトリアージを含めた適切な対応や集中治療の実践技能習得が可能で、救急集中医療専門医へのスムーズな移行も可能です。
- 4) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）ならびに病院内ジェネラリストとしてのホスピタリスト：当院内科研修プログラムでは、1年目の総合内科研修、緩和ケア内科研修、2年目の連携施設への派遣期間中に地域医療、終末期医療、在宅医療などの経験が可能です。全人的な診療技能を身につけたジェネラリストの育成も目指します。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1) ～ 7) により、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年 25名 とします。

- 1) 神戸市立医療センター中央市民病院内科専攻医は現在3学年併せて39名で、1学年12～16名の実績があります。
- 2) 内科系剖検体数は2016年度実績31体、2017年度実績34体、2018年度実績21体です。

表. 神戸市立医療センター中央市民病院診療科別診療実績

2018年度 実績	入院患者 実数 (人 / 年)	外来延患者数 (延人数 / 年)
消化器内科	2,266	44,192
循環器内科	2,209	32,005
糖尿病・内分泌内科	374	19,520
腎臓内科	342	9,796
呼吸器内科	1,546	26,187
脳神経内科	1,132	19,002
血液内科	957	18,500
総合内科（膠原病・感染症を含む）	794	12,539
腫瘍内科・緩和ケア内科	416	13,803

- 3) 代謝、内分泌、膠原病領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1学年20名に対し十分な症例を経験可能です。
- 4) 13領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています（P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群」参照）
- 5) 1学年20名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医2年目に研修する連携施設には、地域基幹病院および地域医療密着型病院の計26施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 7) 専攻医3年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも56疾患群、160症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照] 専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。
- 2) 専門技能【整備基準 5】 [「技術・技能評価手帳」参照] 内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のサブスペシャリティ専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8～10】（P.84 別表 1「各年次到達目標」参照） 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、3 年コースの場合の専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1 年：

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医とともに行うことができます。とくに救命救急センターの内科外来（平日夕方）および総合内科での内科初診外来は診察技能の研修を中心に行います。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2 年：

- ・ 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ・ 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- ・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、サブスペシャリティ上級医の監督下で行うことができます。とくに連携病院の一般外来研修にて各種技能の研修を図ります。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシャリティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを連携施設指導医および担当指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3 年：

- ・ 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経

験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。

- ・ 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを担当指導医が確認します。
- ・ 既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・ 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、サブスペシアルティ上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを担当指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認によって目標を達成します。

神戸市立医療センター中央市民病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年コースの場合は 3 年間（原則として基幹施設での研修を 1 年以上、基幹施設以外での研修も 1 年以上とする）、4 年コースの場合は 4 年間（原則として基幹施設での研修を 1 年以上、基幹施設以外での研修も 1 年以上とする）とします。最初の 2 年間でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシアルティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記①～⑥）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは サブスペシアルティの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ サブスペシアルティ診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回 1 年以上担当医として経験を積みみます。また、希望すれば、総合内科で週 1 回の内科初診外来を 3 ヶ月以上行うことも可能です。
- ④ 救命救急センターの内科外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積みみます。
- ⑤ 当直医ならびに RRS (Rapid response system) の当番補助医として病棟急変などの経験を積みみます。
- ⑥ 必要に応じてサブスペシアルティ診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

(1) 内科領域の救急対応、(2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、(3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、(4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、(5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会、医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会ならびに e-learning 素材による学習
※内科専攻医はそれぞれ年に 2 回以上受講します。
- ② CPC（基幹施設 2018 年度実績 6 回）
- ③ 地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー など 2018 年度実績 54 回）
- ④ JMECC 受講
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑤ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑥ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会 など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題 など

5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- ・ 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- ・ 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- ・ 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- ・ 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- ・ 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した（P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群」参照）。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院事務局総務課が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。ただし可能な限り各連携施設をネット上でつないだカンファレンスを開催し、移動時間のロスを少なくします。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたって努めていく際に不可欠となります。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM:evidence based medicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
 - ② 後輩専攻医の指導を行う。
 - ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
- を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。
※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設のいずれにおいても指導医、サブスペシャルティ上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院事務局総務課が把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践

- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群研修施設は神戸医療圏、近隣医療圏から構成されています。

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、一次から三次救急まで担っておりコモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である京都大学医学部附属病院、地域基幹病院である神戸市民病院機構グループの病院（神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター）、兵庫県立がんセンター、大津赤十字病院、京都医療センター、北野病院、大阪赤十字病院、関西電力病院、天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター、神鋼記念病院、姫路医療センター、倉敷中央病院、国立循環器病研究センター、兵庫医科大学病院、兵庫県立丹波医療センター、香川大学医学部附属病院、公立豊岡病院、済生会中津病院、杏林大学医学部附属病院、神戸朝日病院、地域医療密着型近隣病院である神戸平成病院、川崎病院、甲南医療センター、赤穂市民病院、明石医療センター、洛和会丸太町病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、神戸市立医療センター中央市民病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群（P.16～72）は、神戸医療圏、近隣医療圏の医療機関で構成されています。大半は兵庫県内で電車・バス等で移動が可能です。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

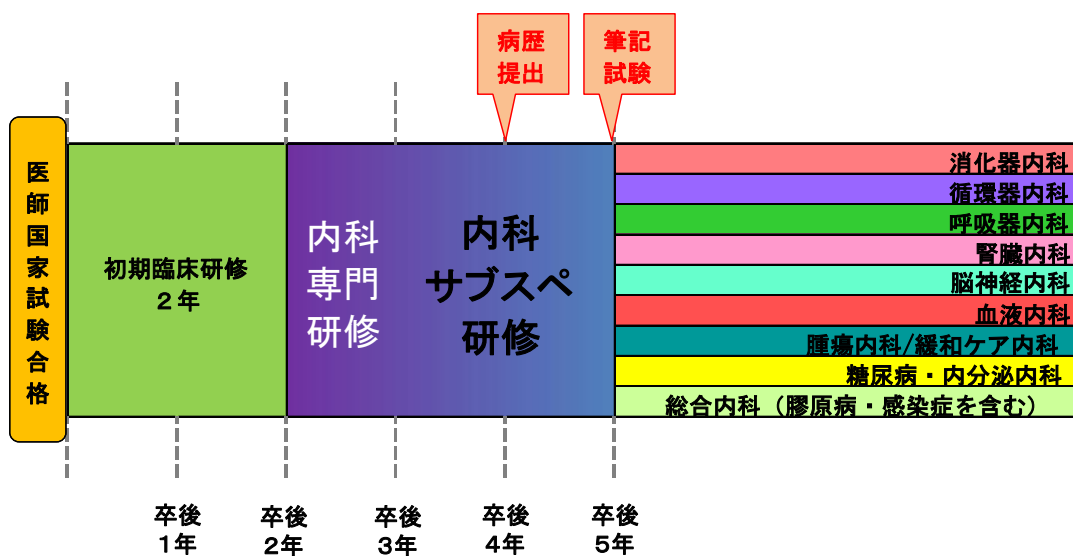
神戸市立医療センター中央市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院・および転院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

神戸市立医療センター中央市民病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

サブスペシャリティ通常研修タイプ（3年コース）

図 1-1 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（概念図）



サブスペシャリティ専門医養成タイプ（4年コース）

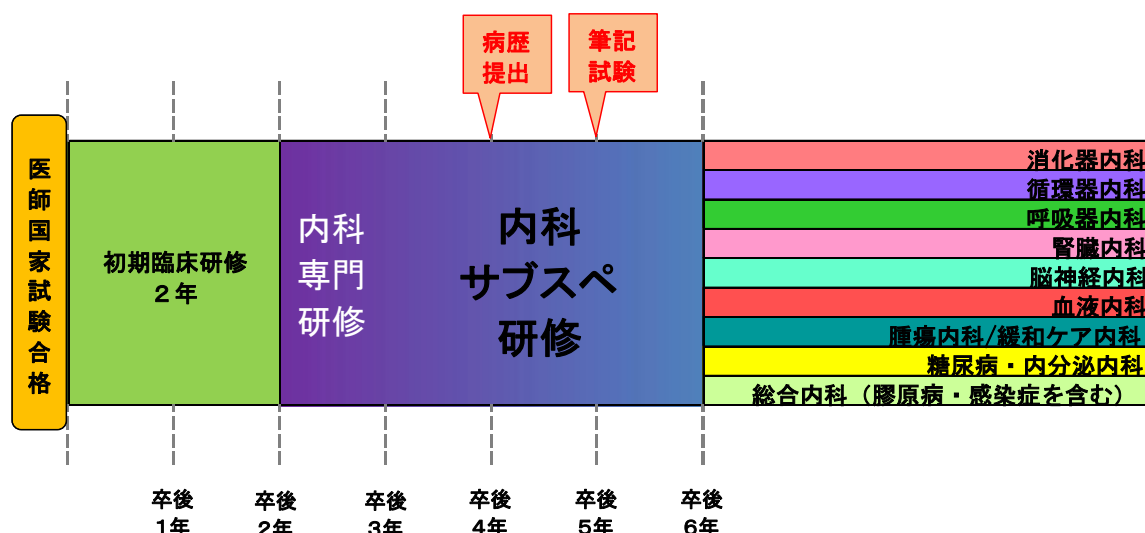


図 1-2 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院内科で、専門研修（専攻医）1年目の専門研修を行います。その年の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などをもとに、2年目以降の専門研修（専攻医）の研修施設を調整し決定します。

専攻医2年目の研修後（4年コースの場合は3年目の研修後）に病歴提出を終え、専攻医3年目の1年間（4年コースの場合は専攻医3年目および4年目の2年間）はサブスペシャリティ研修を行います。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22】

- (1) 神戸市立医療センター中央市民病院事務局総務課の役割
 - ・ 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
 - ・ 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER をもとにカテゴリー別の充足状況を確認します。
 - ・ 3ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 6ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 6ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1ヶ月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
 - ・ 事務局総務課は、メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）を行います。担当指導医、サブスペシャリティ上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査技師・放射線技師・臨床工学技士、事務職員などから、接点の多い職員5名を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種

が評価します。評価は無記名方式で、事務局総務課もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLERに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果はJ-OSLERを通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。

- ・ 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・ 専攻医1名に採用診療科1名の担当指導医（メンター）が神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・ 専攻医はwebにてJ-OSLERにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・ 専攻医は、1年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める70疾患群のうち20疾患群、60症例以上の経験と登録を行うようにします。2年目専門研修終了時に70疾患群のうち45疾患群、120症例以上の経験と登録を行うようにします。3年目専門研修終了時には70疾患群のうち56疾患群、160症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLERでの専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はローテート先上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とローテート先上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- ・ 担当指導医はローテート先上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・ 専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLERに登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形式的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、J-OSLERを用いて研修内容を評価し、以下i)～vi)の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容をJ-OSLERに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P.84別表1「各年次到達目標」参照）。
 - ii) 29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形式的評価後の受理（アクセプト）

- iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 ヶ月前に神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ、統括責任者が修了判定を行います。
- (5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備
「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。なお「神戸市立医療センター中央市民病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（P.75～81）と「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】（P.82～83）と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】

（P.73～74「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

- 1) 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
- i) 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（副院長）、プログラム管理者、事務局代表者、内科サブスペシャルティ分野の研修指導責任者（診療科長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（P.73～74 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修管理委員会の事務局を、神戸市立医療センター中央市民病院事務局総務課におきます。
 - ii) 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修管理委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数、b) 内科病床数、c) 内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e) 1 ヶ月あたり内科入院患者数、f) 剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績、b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数、c) 今年度の専攻医数、d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表、b) 論文発表
- ④ 施設状況
 - a) 施設区分、b) 指導可能領域、c) 内科カンファレンス、d) 他科との合同カンファレンス、e) 抄読会、f) 机、g) 図書館、h) 文献検索システム、i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j) JMECC の開催

⑤ Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

2 年目に連携施設で専門研修（専攻医）をする場合には、専門研修（専攻医）1 年目と 3 年目は基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院の就業環境に、専門研修（専攻医）2 年目は連携施設の就業環境に基づき、就業します（P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院の整備状況：

- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・ 神戸市立医療センター中央市民病院任期付正規職員として労務環境が保障されています。
- ・ メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置しています。
- ・ ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆

評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・ 担当指導医、施設の内科研修委員会、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムを評価します。
- ・ 担当指導医、各施設の内科研修委員会、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

神戸市立医療センター中央市民病院事務局総務課と神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ、対応します。その評価をもとに、必要に応じて神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。

書類選考および面接を行い、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）神戸市立医療センター中央市民病院 事務局総務課

E-mail : kyoikubu@kcho.jp HP : <http://chuo.kcho.jp/>

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

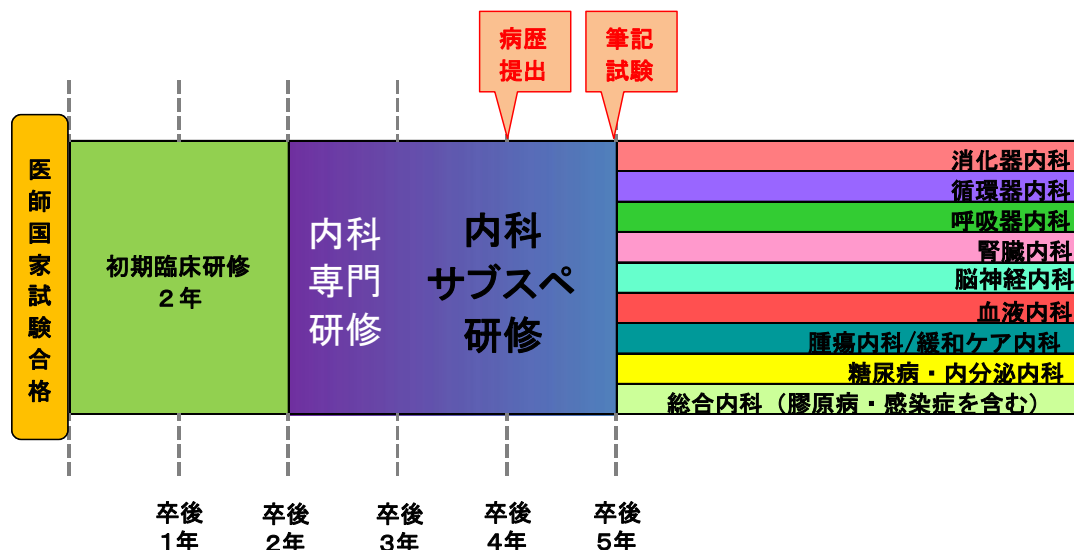
疾病あるいは妊娠・出産、産前産後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満

たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群

サブスペシャリティ通常研修タイプ（3年コース）

研修期間：3年間（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）



サブスペシャリティ専門医養成タイプ（4年コース）

研修期間：4年間

（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）

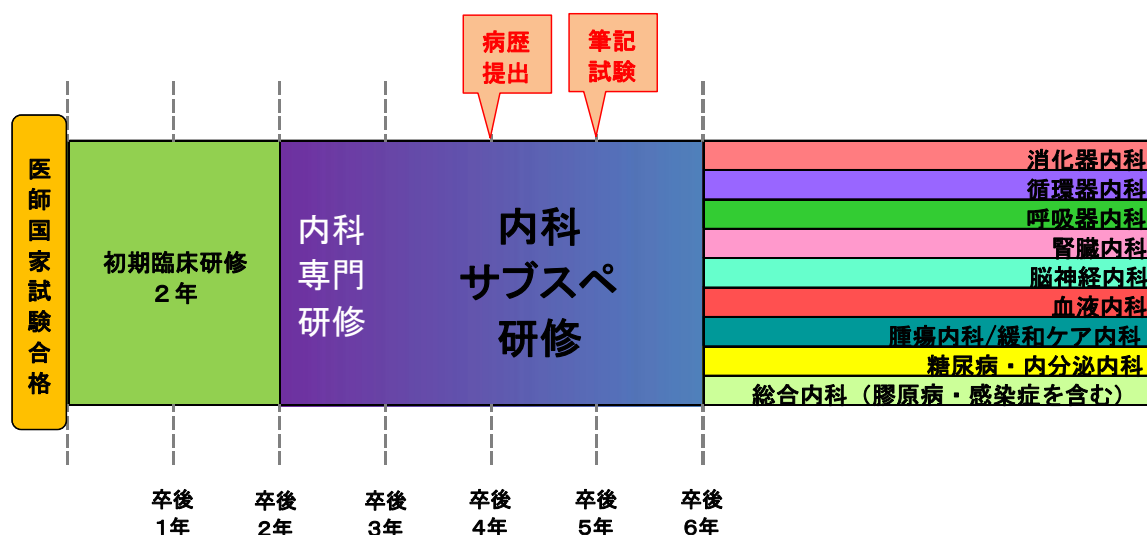


表 1 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群研修施設

令和 2 年 3 月現在

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科 数	内科 指導医 数	総合内 科 専門医 数	内科 剖検数
基幹施設	神戸市立医療センター 中央市民病院	768	334	10	39	39	21
連携施設	神戸市立医療センター 西市民病院	358	154	10	16	15	13
連携施設	神戸市立西神戸医療センター	475	193	9	19	15	12
連携施設	京都大学医学部附属病院	1,121	361	10	105	122	31
連携施設	兵庫県立がんセンター	377	164	9	15	15	3
連携施設	大津赤十字病院	796	301	8	18	15	12
連携施設	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	600	244	12	30	13	11
連携施設	北野病院	699	305	9	35	25	11
連携施設	大阪赤十字病院	964	356	9	42	29	13
連携施設	関西電力病院	400	168	10	24	17	15.7
連携施設	公益財団法人 天理よろづ相談所病院	715	305	7	32	26	32
連携施設	日本赤十字社和歌山医療センター	659	243	10	24	22	7
連携施設	兵庫県立尼崎総合医療センター	730	286	16	63	36	15
連携施設	神鋼記念病院	333	168	9	28	18	8
連携施設	姫路医療センター	411	209	7	29	23	5
連携施設	倉敷中央病院	1,166	501	10	71	47	16
連携施設	国立循環器病研究センター	550	300	10	66	46	24
連携施設	兵庫医科大学病院	963	314	11	107	28	14
連携施設	兵庫県立丹波医療センター	303	77	6	6	5	10
連携施設	香川大学医学部附属病院	613	155	11	58	44	10
連携施設	公立豊岡病院	518	142	8	8	6	5
連携施設	済生会中津病院	712	361	10	36	19	13
連携施設	杏林大学医学部附属病院	1,055	360	13	96	58	35
連携施設	神戸朝日病院	134	134	8	3	2	1
連携施設	神戸平成病院	100	80	5	2	6	0
連携施設	医療法人川崎病院	278	170	6	14	11	7
連携施設	一般財団法人甲南会 甲南医療センター	380	190	9	23	21	6

連携施設	赤穂市民病院	396	136	3	8	5	4.3
連携施設	社会医療法人愛仁会 明石医療センター	382	215	6	21	18	13
連携施設	医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	150	51	6	6	4	3
研修施設合計		17,106	6,977	267	1,044	750	371

表2 各内科専門研修施設の内科13領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
神戸市立医療センター 中央市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター 西市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立西神戸医療センター	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	○	○
京都大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立がんセンター	○	○	×	○	×	×	○	○	×	△	×	×	×
大津赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
北野病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
関西電力病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公益財団法人 天理よろづ相談所病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本赤十字社和歌山医療センター	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立尼崎総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神鋼記念病院	○	○	○	△	○	△	○	○	○	△	○	△	○
姫路医療センター	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	×	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×
兵庫医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
兵庫県立丹波医療センター	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
香川大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公立豊岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会中津病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杏林大学医学部附属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
神戸朝日病院	○	○	△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×
神戸平成病院	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
医療法人川崎病院	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	○	○
一般財団法人甲南会甲南医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○

赤穂市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
明石医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
医療法人社団洛和会 洛和会丸太町病院	○	△	△	△	△	△	○	△	○	△	△	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。
（○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない）

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群研修施設は兵庫県および近隣の医療機関から構成されています。

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である京都大学医学部附属病院、地域基幹病院である神戸市民病院機構グループの病院（神戸市立医療センター西市民病院、神戸市立西神戸医療センター）、兵庫県立がんセンター、大津赤十字病院、京都医療センター、北野病院、大阪赤十字病院、関西電力病院、天理よろづ相談所病院、日本赤十字社和歌山医療センター、兵庫県立尼崎総合医療センター、神鋼記念病院、姫路医療センター、倉敷中央病院、国立循環器病研究センター、兵庫医科大学病院、兵庫県立柏原病院、香川大学医学部附属病院、公立豊岡病院、済生会中津病院、杏林大学医学部附属病院、神戸朝日病院、地域医療密着型病院である神戸平成病院、川崎病院、甲南病院、赤穂市民病院、明石医療センター、洛和会丸太町病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、神戸市立医療センター中央市民病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- ・ 専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などをもとに、2 年目以降の専門研修の研修施設を調整し決定します。
- ・ 研修達成度によっては、3 年目から Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

神戸医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。大半は兵庫県内で電車、バス等で移動が可能です。

1) 専門研修基幹施設

神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置しています。 ・ ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 39 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2018 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー など 2018 年度実績 54 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に事務局総務課が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・ 専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 31 体、2017 年度実績 34 体、2018 年度実績 21 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2018 年度実績 1 回）しています。 ・ 臨床研究推進センターを設置しています。 ・ 定期的に IRB、受託研究審査会を開催（2018 年度実績 11 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表

	(2018 年度実績 3 演題) をしています。
指導責任者	石川隆之 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 32,000 人以上、救急車搬入患者数も 10,000 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 39 名 日本内科学会総合内科専門医 39 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本神経学会神経内科専門医 7 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本超音波医学会超音波専門医 2 名 日本脈管学会脈管専門医 4 名 日本心血管インターベンション治療学会 CVIT 専門医 3 名 日本不整脈学会不整脈専門医 2 名 日本透析医学会透析専門医 3 名 日本脳卒中学会脳卒中専門医 9 名 日本脳神経血管内治療学会専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 7 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本医学放射線学会放射線診断専門医 11 名 日本核医学会核医学専門医 3 名 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名 日本老年医学会老年病専門医 1 名 日本病態栄養学会病態栄養専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 38,743 名 (1 ヶ月平均) 2018 年度 入院患者 19,275 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医認定施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設 日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設 など
-------------------------	--

2) 専門研修連携施設

1. 神戸市立医療センター西市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ・ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、院内保育所、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・利用可能な契約保育所があります
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 9 回）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度実績 28 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の西市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 10 体、2017 年度実績 10 体、2018 年度実績 12 体）を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています ・倫理委員会を設置し定期的に開催（2018 年度実施 1 回）しています ・治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2018 年度実績 12 回）しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 4 演題）をしています
指導責任者	山下 幸政 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県神戸医療圏西部の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター西市民病院を基幹施設として、兵庫県神戸市医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て兵庫県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として兵庫県全域を支える内科専門医の育成を行います。主担当医として、救急対応、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名

	日本肝臓学会専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 3 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,610 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 5,140 名 (1 ヶ月平均延数) 2018 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会準教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 など

2. 神戸市立西神戸医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	①研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ②地方独立行政法人神戸市民病院機構（以下、「機構」という）の任期付職員として労務環境が保障されています。 ③メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課担当職員・リエゾン担当看護師）があります。 ④ハラスメント委員会が機構内に整備されています。 ⑤女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ⑥敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	①指導医は 19 名在籍しています（下記）。 ②内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ③基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と学術研修部を設置します。 ④医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑤研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2020 年度予定：年 2 回開催予定）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑥CPC を定期的開催（2018 年度実績 10 回）し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑦地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績 13 回）を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑧プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2019 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ⑨日本専門医機構による施設実地調査に学術研修部が対応します
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	①カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ②70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記） ③専門研修に必要な剖検（2016 年度 11 体、2017 年度 12 体、2018 年度 14 体、2019 年度 12 体）を行っています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	①臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています ②倫理委員会を設置し定期的開催（2019 年度実施 1 回）しています ③治験委員会を設置し定期的に受託研究審査会を開催（2019 年度実績 12 回）しています ④日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 3 演題）をしています
指導責任者	永澤 浩志 【内科専攻医へのメッセージ】 西神戸医療センターは神戸市西区を中心とした西地域の中心的な急性期病院であり、地域に密着した救急医療と、がん診療連携拠点病院としての高度医療を 2 本柱としています。コモンディーズから重症疾患まで、幅広い症例を経験できます。結核病棟（50 床）を有しており、結核症例も豊富です。 また、当院は平成 6 年の開院当初より地域医療室を開設しており、一貫して地域連携を推進しています。さまざまな病診、病病連携について経験可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本腎臓病学会専門医 1 名

	日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 12,373 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 入院患者 5,436 名（内科系診療科のみ 1 ヶ月 延べ患者数） 2018 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

3. 京都大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有 ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 105 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC（2018 年度 31 回 開催）、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2018 年度は計 33 題の学会発表をしています。
指導責任者	高橋良輔（神経内科教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都大学病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます。本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです。患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 105 名 日本内科学会総合内科専門医 122 名 日本消化器病学会消化器専門医 31 名 日本肝臓学会専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 26 名 日本内分泌学会専門医 16 名 日本糖尿病学会専門医 29 名 日本腎臓病学会専門医 27 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 27 名、 日本血液学会血液専門医 27 名 日本神経学会神経内科専門医 30 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 16 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本救急医学会救急科専門医 12 名ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者 298,476 名（2018 年度延べ数） 内科系入院患者（実数） 111,883 名（2018 年度延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

4. 兵庫県立がんセンター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修指定病院（協力型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・兵庫県臨時的任用職員（常勤医師）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康なやみ相談室）が、兵庫県職員健康管理センター内にあります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。（休憩室は男女共用） ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。利用時間は、7:30～18:45（月～金曜日）です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 15 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2018 年度実績：医療倫理 2 回、医療安全 5 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2018 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(学術講演会)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、内分泌、呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	里内 美弥子 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院及びゲノム医療拠点病院であり、連携施設としてがんの基本的、専門的医療を研修できます。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）までを受け持ち、診断・治療の流れを通じて、患者の社会的背景の理解・療養環境の調整をも包括した全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名 日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 9 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名
外来・入院 患者数	外来患者 268 名（1 日平均） 入院患者 114 名（1 日平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として 6 領域 20 疾患群の症例を経験すること

	ができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの専門的医療だけでなく、高齢者にも対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

5. 大津赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大津赤十字病院医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメントに関する委員会が大津赤十字病院内規程に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は18名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（副院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（仮称）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（仮称）が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016年度実績12体、2017年度実績14体、2018年度実績10体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	河南 智晴 【内科専攻医へのメッセージ】 滋賀県下で最大病床数の基幹病院としての特徴を生かし、高度な研修が可能です。例えば、以前からの救命救急センターが平成25年8月には改めて高度救命救急センターの指定を受けています。その他、68項目の研修認定施設で、将来どの分野を専攻するにしても、充実した指導体制の中で高度な研修ができます。中でも内科は、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、血液・免疫内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、化学療法科の8診

	療科がそれぞれの専門性を保ちつつも緊密に協力しており、総合的で、かつ救急にも対応できる研修が可能です。積極的な参加を期待します。
指導医数 (常勤医)	18名 (総合内科専門医15名、内科指導医3名)
外来・入院患者数	外来患者 33,421 名 (1ヶ月平均) 入院患者 1,259 名 (1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本血液学会認定医血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 非血縁者間骨髄移植認定施設 日本老年医学会認定施設 日本てんかん学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導施設

6. 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構期間職員医師として労務環境が保障されています。 ・管理課厚生係がメンタルストレスに対処し、管理課長がハラスメントの窓口となります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は29名在籍しています（下記）。 ・当院の研修委員会委員長が基幹施設の研修管理委員会の委員として連携を図ります。 ・臨床研修センター（2016年度）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2018年度実績12回）していて、専攻医は受講することが必要です。 ・CPC を定期的開催（2018年度実績6回）します。 ・伏見医師会と共同し地域参加型のカンファレンスを多数行っています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・臨床研究センターを併置し、また臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2017年度実績12回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2017年度実績11回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績10演題）をしています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 10 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 65 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究センターを併置し、また臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2018年度実績12回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2018年度実績11回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績10演題）をしています。
指導責任者	小山 弘 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の中心的な急性期病院である国立病院機構京都医療センターは、地域の医療施設と連携しつつ責任感をもって地域の医療に貢献しています。同時に、古くからの初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修の経験と意思を有しています。そのような環境の中で、内科という、医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を、基幹病院とともに、丁寧な育てていきたいと考えています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医29名 日本内科学会総合内科専門医20名

	内分泌代謝科専門医9名 日本消化器病学会消化器専門医9名 日本循環器学会循環器専門医11名 日本糖尿病学会専門医8名 日本腎臓病学会専門医4名 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名 日本血液学会血液専門医1名 日本神経学会神経内科専門医4名 日本リウマチ学会専門医1名 日本感染症学会専門医1名 日本救急医学会救急科専門医7名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 24,744 名（1 ヶ月平均） 新規入院患者 14,639 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に 基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・ 病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院 FH 診療認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 など

7. 北野病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報が検索できるデータベース・サービス(UpToDate、Cochrane Library、Clinical key、Medical online、科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」、CiNii (NII 学術情報ナビゲータ)他、多数)が院内のどの端末からでも利用できます。 ・公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院の常勤医師としての勤務環境が保証されています。 ・院内の職員食堂では 250 円～480 円で麺類・カレーライス・定食等を提供しており、当直明けには院内のコーヒーショップのモーニングセットを全員に用意します。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室、更衣室、当直室が整備されています。 ・院内保育所が完備され、小児科病棟では病児保育も利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医は 35 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(内科統括部長)、プログラム管理者(主任部長)(ともに指導医)にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と医師卒後教育センターを設置しています。 ・医療倫理(2019 年度 1 回)・医療安全(2019 年度 7 回)・感染対策講習会(2019 年度 16 回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催(2019 年度実績 6 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕 を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に医師卒後教育センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野(少なくとも 7 分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも 35 以上の疾患群)について研修できます(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度 11 体)を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 4 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	塚本 達雄 【内科専攻医へのメッセージ】 北野病院は、大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 35 名 日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本内分泌学会内分泌代謝専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本透析医学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名 日本アレルギー学会専門医(内科)1 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本老年学会老年専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医1名 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来:1607 名(全科 1 日平均:平成 30 年度実績) 入院: 596 名(全科 1 日平均:平成 30 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本救急医学会認定専門医指定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

8. 大阪赤十字病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大阪赤十字病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談体制が大阪赤十字病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院に隣接した契約保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 35 名在籍しています。（下記） ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修推進室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2017 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのために時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医は受講します。 ・CPC を定期的開催（2018 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（日赤フォーラム、大阪赤十字病院懇話会、合同神経内科カンファレンス、新大阪腎疾患カンファレンスなど：2018 年度実績 41 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催実績 1 回：受講者 12 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。 ・特別連携施設（日本赤十字社 多可赤十字病院）の専門研修では、電話などにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 21 体、2017 年度実績 20 体、2018 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研修に必要な図書室などを整備しています。 ・医療倫理審査委員会を設置し、定期的開催（2018 年度実績 12 回）しています。 ・治験事務局を設置し、定期的治験審査委員会を開催（2018 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 6 演題）をしています。
指導責任者	西坂 泰夫 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪赤十字病院は、天王寺区という大阪市のほぼ中央に位置する、非常にアクセスの良い大阪市医療圏の中心的な急性期病院であり、他の大阪市医療圏・近隣医療圏にある基幹施設・連携施設・特別連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた柔軟性のある、救急医療、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を体感・実践できる“懐深き”内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 35 名、 日本内科学会総合内科専門医 29 名 日本消化器病学会消化器専門医 15 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名

	日本糖尿病学会専門医 5名 日本腎臓病学会専門医 3名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7名 日本血液学会血液専門医 7名 日本神経学会神経内科専門医 5名 日本アレルギー学会専門医（内科）3名 日本リウマチ学会専門医 2名 日本感染症学会専門医 1名 日本救急医学会救急科専門医 2名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 17,569名（1ヶ月平均） 入院患者 889名（1ヶ月平均） ※2018年度内科系
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本感染症学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

9. 関西電力病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・関西電力病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（関西電力株式会社内に設置）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 24 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修部を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：西部大阪肝疾患地域連携会・市民公開講座，Osaka River Disease Collaborate Conference (OLD-CC)，消化器センター市民講座，関西電力病院レントゲン読影会，関西電力病院 糖尿病フォーラム，Kansai Diabetes Network Seminar，北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会，地域の糖尿病診療を考える会，KDF 研究会，糖尿病フォーラム）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち 62 疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実績 22 体，2018 年度 10 体，2019 年度 15 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2014 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	濱野 利明 【内科専攻医へのメッセージ】 関西電力病院は 400 床を有する通常の地域中核病院であり、関西電力関係者は家族も含めて全外来患者数の約 3%です。病院は 2013 年新築で、堂島川に面し、ビル群に囲まれた美しい都会的な環境にある一方、周辺には古い下町の面影を残す地域もあります。 内科には循環器内科、血液内科、消化器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器内科、脳神経内科、腫瘍内科の 8 専門科および緩和医療科があり、充実したスタッフと共に最新設備を用いた研修を受けることができます。中規模病院であるため、診療科間の垣根が低くコンサルトが容易にできる良い伝統があります。 当院のプログラムでは、できるだけ専攻医の希望に沿ったローテートを予定しており、指導医は、知識、技術の指導を細やかに行うとともに、キャリアプランなど様々な相談に乗ります。各専門科で早期に十分な症例数を経験できるため、後半には subspecialty を目指す研修も可能です。

	連携病院は京都大学、大阪市立大学、北野病院、大阪赤十字病院など大規模病院と相互連携している一方、市立川西病院、守口敬仁会病院とも連携しており、最新の医療から地域医療まで広い範囲の研修が可能です。 病院には関西電力医学研究所が併設されており、ヒトサンプルを用いた実験を通じて、臨床に根ざした医学研究が可能です。 総合性と専門性、二兎を追ってみませんか。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 24 名、 日本内科学会総合内科専門医 14 名、 日本循環器学会専門医 5 名、 日本消化器病学会専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 6 名、 日本病態栄養学会専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、 日本血液学会専門医 5 名、 日本腎臓学会専門医 3 名、 日本透析医学会専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会専門医 2 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名、 日本神経学会専門医 5 名、 日本老年医学会専門医 2 名、 日本緩和医療学会専門医 1 名 ほか
外来・入院 患者数	外来患者 830 名 (1 日平均) 入院患者 359 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本栄養療法推進協議会 N S T 稼働施設認定 日本肝臓学会専門医施設認定 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本気管食道科学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本血液学会血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 など

10. 天理よろづ相談所病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 32 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催します。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 8 回）します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています
指導責任者	田口 善夫 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の1つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名 日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本内分泌学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 約 1,700 名（1 日平均） 入院患者 約 500 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設

	日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医制度認定施設 など
--	---

11. 日本赤十字社和歌山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本赤十字社和歌山医療センター常勤嘱託医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する、苦情・相談体制が整っています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接地に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 43 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に企画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催実績 2 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・その他、事務対応、施設実地調査は業務部研修課が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度 13 体、2018 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室（24 時間利用可）、統計解析ソフト JMP などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題以上）をしています。
指導責任者	直川 匡晴（血液内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 日本赤十字社和歌山医療センターは、和歌山県和歌山医療圏の中心的な急性期病院であり、三次医療圏・近隣医療圏にある連携・特別連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	内科系常勤医師数 62 名 内科指導医数 24 名 認定内科医数 43 名 総合内科専門医数 22 名 他、内科領域専門医複数
外来・入院患者数 （内科領域年間）	内科の延外来患者 182,089 名 内科の新入院患者 7,783 名 ※2018 年度
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70

	疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本感染症学会連携研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本肥満症学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修施設 など

12. 兵庫県立尼崎総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります。学術情報が検索できるデータベース・サービス（Cochrane, Libraly, ClinicalKey, DynaMed, MEDLINEComplete, Medicalonline, 医中誌web など利用できます。 ・当院での研修中は、兵庫県臨時的任用職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 63 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（教育部長：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い（2019 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催実績 2 回,2019 年合同で 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 15 体、2017 年度実績 12 体、2018 年度実績 18 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に行い（2018 年度実績 3 回）しています。 ・治験管理室(クリニカルリサーチセンター)を設置し、定期的に行い受託研究審査会を開催（2018 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度 3 演題,2018 年度 13 演題）をしています。
指導責任者	竹岡浩也 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）は、兵庫県阪神南医療圏の中心的高度急性期病院です。地域から負託された内科救急医療に応え、内科救急・サブスペ救急を学ぶ場として 1 年次に 2 ヶ月間の「救命救急初療＋ICU」研修を基幹施設で研修することとしました。連携施設研修は 1 年間になります。選択によっては、転居することなく、通勤可能圏内での連携施設研修ができるよう工夫しました。研修施設群には十分な症例数があり、専門研修 1 年目と 2 年目で症例目標は達成できると考えています。 当院内科系専門診療科のモットーは、「ジェネラルにも対応できる専門医養成」です。下欄に示すように内科系サブスペシャリティ専門医・指導医を多数擁しております内科専門医研修でジェネラルをおさえつつ、サブスペシャリティを究めていただきたい。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 63 名、 日本内科学会総合内科専門医 36 名、 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、 日本血液学会血液専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 7 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本老年学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 3 名 ほか ※内科系診療科のみ
外来・入院患者数	外来延患者 16,628 名 (1 ヶ月平均) 入院患者実数 813 (1 ヶ月平均) ※内科系のみ
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定専門医教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本東洋医学会専門医教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医訓練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医診療施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 など

13. 神鋼記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神鋼記念病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事所管室職員担当）があります。 ・ハラスメント相談員が人事所管室に専従しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に契約保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医は 28 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年 3 回程）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（神鋼記念病院地域連携講演会、東神戸総合内科講演会、東神戸臨床フォーラム、東神戸呼吸器疾患講演会、神鋼循環器セミナー、神鋼糖尿病セミナー、神戸膠原病腎臓カンファレンス、など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器、循環器、血液、膠原病、神経、代謝、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・総合医学研究センターを設立し、医学・医療の発展のために臨床医学研究を推進し、高度先進医療の支援や共同研究を行なっています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（年 7～8 演題）をしています。
指導責任者	塩 せいじ 【内科専攻医へのメッセージ】 神鋼記念病院は、神戸の中心地に位置する急性期総合病院であるとともに、地域に根ざした第一線の病院でもあります。このことから臓器別の Subspecialty 領域（総合内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、リウマチ膠原病内科、神経内科、糖尿病代謝内科、腫瘍内科、救急）に支えられた高度な急性期医療とコモンディーズが同時に経験できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 5 名 日本肝臓学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 20,922 名（1 ヶ月平均） 入院患者 9,480 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修研究会臨床研修指定病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本乳癌学会関連施設 アレルギー学会認定施設 日本脳卒中学会認定施設 日本神経学会准教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 など

14. 姫路医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ・専攻医用宿舎があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ・ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています（2020 年 3 月現在）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した研修支援システムを構築します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また研修施設群合同カンファレンス等にも、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（月曜会、姫路 GI 研究会、若手医師のための呼吸器勉強会、2019 年度実績 65 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ・専門研修に必要な剖検（年間約 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ・臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。
指導責任者	中原保治 【内科専攻医へのメッセージ】 ・姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気です。研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ・本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心して研修に集中することを支援します。 ・研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ・サブスペシャリティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ・とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャリティ研修が可能

	です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 29 名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本消化器内視鏡学会専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 7 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本内分泌学会内分泌代謝専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	内科系の外来患者 5,004 名 (1 ヶ月平均) 内科系の入院患者 5,811 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

15. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・倉敷中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります。 ・ハラスメント委員会が当院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 71 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（年間開催回数：医療倫理 3 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（年間実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2018 年度実績 8 演題）をしています。又、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります。(2018 年度実績 269 演題)
指導責任者	石田 直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は、岡山県南西部の医療の中核として機能しており、地域の救急医療を支えながら、又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です。 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり、又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています。 内科専門医制度の発足にあたり、連携病院並びに特別連携病院両者との連携による、地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ、地域医療の充実に向けての様々な活動を行います。 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います。又内科系救急医療の修練を行うと同時に、総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います。加えて、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供しながら、医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 71 名 日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 17 名 日本循環器学会循環器専門医 16 名 日本内分泌学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 10 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名 日本血液学会血液専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 5 名

	日本感染症学会専門医 4 名 日本救急医学会専門医 4 名 日本肝臓学会専門医 5 名 日本老年医学会専門医 3 名 ほか
外来・入院患者数 (内科全体の)	外来患者延べ数 286,101 人/年 (2018 年度実績) 入院患者数 14,339 人/年 (2018 年度実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

16. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 61 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 35 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2014 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 85 演題）をしています。
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 66 名 日本内科学会総合内科専門医 46 名 日本循環器学会循環器専門医 45 名 日本糖尿病学会専門医 10 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 16 名 日本老年医学会専門医 3 名
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者 610 人（平均延数／日） 入院患者 1,065 人（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある 11 領域、32 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設

	日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など
--	---

17. 兵庫医科大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・隣接地の保育園に当院専用枠が 70 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 107 名在籍しています。 ・本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催しています。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に、臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・兵庫医科大学病院には 11 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	朝倉 正紀 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫医科大学は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という性格から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 107 名 日本内科学会総合内科専門医 28 名 血液専門医 10 名 日本リウマチ学会専門医 6 名 日本糖尿病学会認定専門医 4 名 日本内分泌学会専門医 3 名

	日本消化器病学会消化器専門医 29 名 日本消化器内視鏡学会専門医 17 名 日本呼吸器学会専門医 8 名 日本神経学会専門医 6 名 日本腎臓学会認定専門医 8 名 日本透析医学会認定専門医 5 名 日本循環器学会専門医 13 名
外来・入院患者数	外来患者名 48,703 名（1 ヶ月平均）入院患者名 2,527 名（1 ヶ月平均） ※2019 年度実績
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。
学会認定施設（内科系）	日本アレルギー学会 日本がん治療認定医機構 日本リウマチ学会 日本リハビリテーション医学会 日本遺伝カウンセリング学会 日本感染症学会 日本肝臓学会 日本救急医学会 日本血液学会 日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本産科婦人科学会 日本循環器学会 日本消化器外科学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器病学会 日本心血管インターベンション学会 日本緩和医療学会 日本静脈経腸栄養学会 日本動脈硬化学会 日本不整脈学会 日本認知症学会 日本神経学会 日本腎臓学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本東洋医学会 日本糖尿病学会 日本透析医学会 日本頭痛学会 日本内科学会 日本内分泌学会 日本脳卒中学会 日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会 日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会

	日本老年医学会 日本 IVR 学会 日本カプセル内視鏡学会 日本高血圧学会 日本消化管学会 日本胆道学会
--	---

18. 兵庫県立丹波医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネットがあります。 ・スキルスラボが整備されています。 ・地域医療教育センターが設置され、神戸大学からの特命教授等による教育が受けられます。 ・兵庫県臨時的任用医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康なやみ相談室）が兵庫県職員健康管理センター内にあります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・近隣に保育所があり、利用可能です。（新病院では、院内保育所あり）
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は6名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（副院長）（総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（仮称）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2016 年度実績 1 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・TV 会議システムを用いた神戸大学病院等との合同カンファレンスを開催しています。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（仮称）が対応します。 ・特別連携施設（丹波市診療所（仮称）H31 上期開設予定）の専門研修では、電話や週 1 回の面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 1 3 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・7 0 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 6 体、2017 年度 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2016 年度実績 21 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に開催（2016 年度実績 1 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 4 演題）をしています。 ・症例報告を中心に英文論文（2015 年 1 4 編）を発表しています。

指導責任者	西崎 朗 【内科専攻医へのメッセージ】 県立柏原病院の内科は米国型 GIM の体制で運営されていること、さらに緩和ケア病棟をもつことが大きな特徴です。臓器別内科ローテートとはちがう研修が受けられます。内科指導医は非常に教育のマインドが強く、又神戸大学からの教育支援をこれほどしている病院は他にはありません。ジェネラルなマインドをもった内科専門医になることができます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名, 日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名, 日本循環器学会循環器専門医 4 名, 日本消化器内視鏡学会内視鏡専門医 3 名, 日本腎臓病学会専門医 1 名, 日本消化管学会消化管専門医 1 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名, 日本感染症学会感染症専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 6,861 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 5,062 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 44 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本病理学会研修登録施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など

19. 香川大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・香川大学医学部附属病院後期研修医（医員）として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）があります。 ・ハラスメント相談員が相談に対応します。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 58 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 医療倫理 5 回、医療安全 37 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2018 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	正木 勉 【内科専攻医へのメッセージ】 香川大学医学部附属病院は香川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 58 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名、日本消化器病学会消化器専門医 25 名、日本循環器学会循環器専門医 13 名、日本内分泌学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 6 名、日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 10 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 239,360 名（年間延患者数） 入院患者 190,498 名（年間延患者数） ※2018 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本内科学会認定教育施設

(内科系)	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アフェレンス学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など
-------	---

20. 公立豊岡病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院(初期臨床研修)に指定されています。 ・研修に必要な図書館・インターネット環境・個人用机を完備しています。 ・公立豊岡病院での研修期間中の就業条件は豊岡病院と基幹施設との協定に基づき保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会・産業医)があります。 ・苦情処理委員会がハラスメントに対応します。 ・女性専用の更衣室・シャワー室を完備しています。 ・敷地内に院内保育所を開設(病児保育にも対応)しています。 ・医師用宿舎を備えています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が8名在籍しています。 ・専門研修プログラム管理委員会を設置しプログラム内で研修する専攻医の研修を管理します。 ・専攻医に対し、医療倫理、医療安全、感染症対策講習会の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科では定期的にカンファレンスを開催し、専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・TV 会議システムを活用した地域参加型カンファレンスを定期的で開催しています。 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：但馬内科医会、但馬内科合同カンファレンス、但馬消化器疾患研究会、（TV会議システムによる）尼崎・豊岡合同テレカンファレンス、（TV会議システムによる）県養成医カンファレンス；2018年度実績44回） ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修部が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに提示した13領域全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を確保しています。 ・専門研修に必要な剖検数（2014年度10件、2015年度9件、2016年度12件、2017年度6件、2018年度5件）を確保しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、開催しています。 ・日本内科学会講演や地方会において学会発表を行うことが可能です。 ・学会参加費を助成しています。
指導責任者	松島 一士（脳神経内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 公立豊岡病院は北兵庫地域の518床を有する地域中核病院であり、ドクターヘリ・ドクターカーを持つ救命救急センターもあるため、広域の医療圏から数多くの患者が集中いたします。このため、救急内科疾患をはじめ、希有な疾患からcommon diseaseまで幅広く経験していただけます。 また、我々指導医は、皆様が患者本位の全人的な医療サービスが提供できる責任感のある医師であり、かつ、学究的な医師とられるように指導させていただきます。
指導医数 (常勤医)	総合内科専門医5名、日本神経学会専門医1名、日本呼吸器学会専門医2名、日本アレルギー学会専門医1名、日本消化器病学会専門医1名、日本循環器病学会専門医2名、日本糖尿病学会指導医1名（専門領域）
外来・入院患者数	総入院患者 19,567 人/月(2018年度)、総外来患者 13,332 人/月(2018年度)
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域（総合内科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急）、70疾患群の症例を幅広く

	く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記載された内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することが可能。
経験できる地域医療・診療連携	【地域医療，全人的医療，病診連携・病病連携，検診の経験】 急性期医療だけでなく，主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力を修得します。 また，公立豊岡病院は，兵庫県但馬医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域に根ざす第一線の病院でもあることから，common disease の経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や在宅訪問診療などの病診連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度教育病院 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本神経学会専門医制度准教育施設 ・日本呼吸器学会教育関連施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設 ・日本消化器病学会関連施設 ・日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ ・日本高血圧学会認定教育施設

21. 済生会中津病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院（基幹型・協力型）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・済生会中津病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 36 名在籍しています。 ・研修委員会：各内科系診療科の代表・臨床教育部部長などで構成され、基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。 ・研修委員会と臨床教育部で専攻医の研修状況を管理し、プログラムに沿った研修ができるよう調整します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・各診療科が参加している地域参加型のカンファレンスに専攻医の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度 11 体、2017 年度 11 体、2018 年度 13 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、必要時に開催（2018 年度実績 3 回）しています。 ・治験審査委員会と臨床研究倫理審査委員会を設置し、審査会を開催（2018 年度実績 11 回、4 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2018 年度実績 7 演題）をしています。
指導責任者	長谷川 吉則 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪府済生会中津病院は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどからなる済生会中津医療福祉センターの中核をなす 712 床の大型総合病院であり、平成 28 年に創立 100 周年を迎えました。当院は大阪市医療圏の北部地域の中心的な急性期病院として、地域の病診・病病連携の中核をなし、救急診療に力を注ぐ一方、地域包括ケア病棟や回復期リハビリテーション病棟も併せ持っており、急性期から慢性期まで幅広い疾患の診療経験ができます。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 36 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名、日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 6 名、日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 3 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、

	日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者(内科)14,572 名（1 ヶ月平均） 入院患者（内科）680 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度内科専門医教育病院 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本心血管カテーテル治療学会 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会認定施設 など

22. 杏林大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・杏林大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が杏林大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・施設近隣に当院と提携している保育所があり、病児保育の利用も可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 96 名在籍しています（2020 年 3 月時点）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に複数回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2020 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC 受講（杏林大学医学部附属病院で開催実績：2019 年度開催実績：2019 年 3 月末日に開催予定） プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、高齢医学、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年度実 45 体、2018 年度 35 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・国内では、地方会や総会で、積極的に学会発表をしています。 また海外の学会でも、学会発表を行います。
指導責任者	消化器内科 主任教授 久松理一 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和45年8月に設置した杏林大学医学部附属病院は、東京西部・三多摩地区の大学病院として高度な医療のセンター的役割を果たしており、平成6年4月に厚生省から特定機能病院として承認されています。高度救命救急センター（3次救急医療）、総合周産期母子医療センター、がんセンター、脳卒中センター、透析センター、もの忘れセンター等に加え、救急初期診療チームが1・2次救急に24時間対応チームとして活動しています。 東京都三鷹市に位置する基幹施設として、東京都西部医療圏（多摩、武蔵野）・近隣医療圏にある連携施設と協力し内科専門研修を経て東京都西部医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練します。さらに内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はより高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 58 名、日本内科学会指導医 96 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名、日本腎臓病学会専門医 12 名、 日本透析学会専門医 10 名、日本リウマチ学会専門医 8 名、 日本神経学会神経内科専門医 9 名、日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、

	日本不整脈学会不整脈専門医 8 名，日本消化器病学会消化器専門医 19 名，日本消化器内視鏡学会専門医 14 名，日本内分泌学会専門医 11 名，日本糖尿病学会専門医 7 名，日本老年医学会老年病専門医 9 名，日本臨床腫瘍学会暫定指導医 1 名，他
外来・入院患者数	外来患者 15617 人名（1 ヶ月平均） 入院患者 9140 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症経験することができ ます。
経験できる技術・技能	本プログラムは，専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年 間）（基幹施設 1.5 年間＋連携施設 1.5 年間）東京都地域枠へき地対応プロ グラムに，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制 度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて，標準 的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。
経験できる地域医療・ 診療連携	連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するため に，原則として 1 年間あるいは 1.5 年間，立場や地域における役割の異なる 医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践し ます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会教育認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本リウマチ学会リウマチ専門研修認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本老年医学会認定施設 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定施設

23. 神戸朝日病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸朝日病院医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るようメンタルヘルスチェックの導入と対処する部署（社会保険労務士）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・保育料の補助制度があります。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は2名在籍しています（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：2回、感染対策：2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2018年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・症例検討会、読影画像検討会、抄読会を毎週実施、および地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2016年度実績2体、2017年度実績4体、2018年度実績1体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を設置しています。 ・倫理委員会を設置しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年1演題以上の学会発表をする予定です。
指導責任者	金 秀基 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸朝日病院は、急性期病院と慢性期病院の中間の役割を担う「地域包括期病院」に位置しており、幅広くcommon disease症例の経験を積むことが可能です。「関わってくださった患者さんの人生を大事にする」をコンセプトに、疾患治療～退院調整まで、可塑性・柔軟性を持って診療に取り組んでいます。また、当院では消化器・肝臓領域を中心に学会発表・論文作成のサポート体制も整っています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医2名 日本内科学会総合内科専門医2名 日本肝臓学会肝臓指導医3名 日本肝臓学会肝臓専門医1名 日本消化器病学会消化器指導医3名 日本消化器病学会消化器専門医1名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医2名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医2名 日本医学放射線学会医学放射線専門医1名 日本IVR学会IVR専門医1名 日本核学会核専門医1名 日本がん治療認定医機構がん治療認定医2名
外来・入院患者数	2018年度 外来患者 30,316名 入院患者 42,555名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期～慢性期～在宅にいたるまでトータルで幅広く関われるように取り組んでおり、兵庫県肝疾患専門医療機関としての「専門診療」と地域包括期病院としての「地域医療」の両立が当院の特徴であり、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、放射線技師、臨床工学士、MSW等による多職種連携を実践しております。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本静脈経腸栄養学会認定 NST 稼働施設

24. 神戸平成病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります。 ・メンタルヘルス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 (総務課職員担当) ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が2名在籍しています(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染防止対策講習会を定期的に行い(2018年度実績 医療安全2回、感染防止対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2018年度実績 病診、病病連携カンファレンス4回)を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会あるいは同地方会に年間で1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	富永 正幸 【内科専攻医へのメッセージ】 神戸平成病院は兵庫県神戸市中央区にあり、一般病棟56床(うち地域包括病床20床)、回復期リハビリテーション病棟44床を有し、地域密着型の病院として、適切な治療と積極的なリハビリテーションを実施しています。
指導医数 (常勤医)	2名 1名：認定内科医・総合内科専門医・日本消化器病学会専門医・日本肝臓学会専門医 1名：認定内科医・日本消化器病学会専門医
外来・入院患者数	年間 外来 18,984名 入院 32,319名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、広く経験することが出来ます。この時、複数の疾患を併せ持つ高齢者医療において、検査・治療をどこまで行うことがその患者にとって有益かどうかという視点を常に持ちながら実施して頂きます。 認知症ケア、褥創ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能を総合的に研修することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	当院は、医師、看護師、介護士、PT、OT、ST、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、検査技師、放射線技師、MSW等によるスキルミクス(他職種連携)を実践しています。チーム医療における医師の役割を研修します。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定関連施設

25. 医療法人川崎病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境を整備しています。 ・ 医療法人川崎病院非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ ストレスチェックの実施を全職員に推奨しており、ストレスの高い職員への産業医受診を勧めています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ 働き方改革関連法に準じた労務環境の構築に向けて、「医師働き方推進室」を設置しております（事務職 2 名専従）。 ・ 各種ハラスメント相談窓口が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。夜間保育も行っています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 11 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（総合診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理室を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2018 年度実績：講演会 6 回 適宜 e-learning 実施）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（院内学術集会、院内感染対策講習会、地域連携セミナー、兵庫区循環器研究会、兵庫区消化器連携セミナー、心不全カンファレンスなど；2018 年度実績：18 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	飯田正人 【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名 日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器病専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者数：14,371 名（月平均） 入院患者数：7,053 名（月平均） ※2018 年度実績

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

26. 甲南医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境 (Wi-Fi)があります。 ・甲南医療センター常勤医として労務環境が保障されます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (人事部長、産業医) があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医のための更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 23 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を職員必須講習として定期的に行われ (2018 年度実績 医療倫理 1 回 (複数回開催)、医療安全年 11 回開催 (述べ 16 回) 感染対策 2 回開催し専攻医にも受講を義務付けます。 ・CPC を定期的に行われ (2018 年度 7 回)、専攻医に受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に行われ専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのため時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けそのため時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の大半の分野 (少なくとも 7 分野以上) で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。関連学会での発表も定期的に行っています。
指導責任者	福永 馨 (糖尿病・総合内科学分野) 【内科専攻医へのメッセージ】 甲南医療センターは東神戸地域の基幹病院として、急性期医療と種々の専門領域に力を入れており、加古川中央市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医、日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本緩和医療学会緩和医療専門医ほか
外来・入院患者数	外来患者数 3813 名 (内科のみ 1 ヶ月平均) 入院患者 3,989 名 (内科のみ 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の大部分の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベーション治療学会研修関連施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設、日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本神経学会准教育施設、日本頭痛学会准教育施設、日本消化管学会暫定処置による指導施設、日本透析医学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本アレルギー学会教育研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設など
-------------------------	---

27. 赤穂市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・赤穂市常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・職員安全衛生委員会（ハラスメント委員会）が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 10 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに内科指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2020 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2018 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：東備・西播磨循環器カンファレンス、赤穂市医師会オープンカンファレンス、千種川カンファレンス、2018 年度実績 4 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・特別連携施設（兵庫県災害医療センター）の専門研修では、電話や週 1 回の赤穂市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2017 年実績 11 体、2018 年 4 体 2019 年実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・医の倫理委員会を設置し、開催しています。 ・臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	藤井 隆 【内科専攻医へのメッセージ】 赤穂市民病院は、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、播磨姫路医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名, 日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名, 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名, 日本透析医学会専門医 1 名, 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名, 日本肝臓学会専門医 1 名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 13,939 名 (病院全体 1 ヶ月平均延患者数) 入院患者 7,093 名 (病院全体 1 ヶ月平均延患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会専門医教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本病理学会専門医研修登録施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本静脈経腸栄養学会専門療法士認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本プライマリ・ケア連合学会家庭医療後期研修プログラム認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

28. 明石医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 明石医療センター常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署及びハラスメント委員会として労働安全衛生委員会が病院内に設置されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 院内の近くに院内保育所があり、利用可能です。 (申請の時に説明・書類手続きがある為必ず事前にご連絡をお願い致します)
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 日本内科学会指導医は 21 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2019 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全(医療安全管理研修事例検討会 4 回)、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2018 年度件数 5 回、2019 年度件数 4 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス(2019 年度実績 明石医療センター地域医療連携の会 1 回、感染防止対策地域カンファレンス 4 回等)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定しています。 レジデントのための臨床研究ワークショップを定期的に行い臨床研究について勉強する機会を設けています。 症例報告や臨床研究の学会報告や論文作成も活発に行い、医学統計専門家や外国人講師による英文校正の指導を受けることができます。
指導責任者	木南 佐織 【内科専攻医へのメッセージ】 明石医療センターは「患者さまに信頼される医療」をモットーに明石市の中心的な急性期病院として、地域に根差した医療を行っております。 2013 年の病床数、手術室、検査室の拡張により、高度急性期病院としての診療機能の更なる整備・充足が図れました。専門科および総合内科の指導医は充足しており、サブスペシャリティの研修はもちろんのこと、総合内科医として幅広い研修が可能です。2019 年度から救急科専門医 2 名が赴任し、コモンディジーズから高度急性期医療まで、さらに幅広い診療が可能となりました。また症例報告や臨床研究にも力を入れており、専攻医期間中の学会発表・論文作成の指導体制も整っています。症例の少ない疾患に関しては、それらの症例を経験できるように考慮した関連病院での研修が可能であり、3 年間で 13 領域、70 疾患群の症例を十分に経験することができます。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 21 名、日本内科学会総合内科専門医 18 名、 日本循環器学会専門医 4 名、日本呼吸器学会専門医 3 名、 日本消化器病学会専門医 7 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医 3 名、日本肝臓学会専門医 3 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名、日本感染症学会専門医 3 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌代謝科専門医 2 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 7,136 名 (内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数) 入院患者 6,202 名 (内科系診療科のみ 1 ヶ月平均 延べ患者数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に 基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・ 診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・ 病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本透析医学会専門医教育関連施設 社団法人日本感染症学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

29. 洛和会丸太町病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	心地よく：1人で患者を抱え込む必要性がありません。皆で楽しく勉強できます。救急患者をそのまま連続して入院診療することで申し送りも不要でスムーズでストレスのない診療が可能となります。一方で専門医による緊急心カテ、緊急内視鏡の24時間対応があるので安心です。どんなコンサルトでも自信を持って心地よく受け入れられる医師を目指してもらいます。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	広く：当院は病床数150床の病院にもかかわらず、年間3,000件程度の救急搬送件数があります。そのなかで救急・総合診療科は、一次～二次救急まで重症度に関わらず、ほとんどの内科領域の疾患を扱っています。また救急からの内科的疾患の8割が救急・総合診療科に入院しています。救急から集中治療、一般入院、外来まで同じ上級医により一貫した指導を受けながら診療が行えます。最近ではグループホームを含めた在宅診療にも力を入れています。自分に枠を作らず、様々な環境で目の前の患者さんにしっかり対応しようとする/できる医師を目指してもらいます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	洛和会丸太町病院は150床という規模であるが救急受け入れが多く、多様な疾患を経験することができる。標榜科が少ないため、救急総合診療科が多様な疾患をカバーしている。また洛和会系列のグループホームの往診や外来診療なども含めて多様なセッティングで診療を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	深く：救急診療から入院診療、外来診療まで全てにおいてチーム体制で濃厚なフィードバックを全例受けられるシステムかが整っています。EBMの実践に加え臨床研究や論文執筆にも携わります。上記の広さだけでなく、深みを持った診療をしていただきます。
指導責任者	上田 剛士 洛和会丸太町病院総合診療専門研修プログラム（以下本研修 PG）は病棟、救急、外来、診療所、在宅診療と場所を問わず、全人的医療を展開し患者に寄り添うことのできる総合診療専門医の養成を目的としています。洛和会丸太町病院 救急総合診療科の理念は「広く、深く、心地よく」です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医6名 日本内科学会総合内科専門医3名 日本循環器学会専門医3名 日本消化器病学会消化器専門医・指導医1名 日本消化器内視鏡学会指導医1名 日本肝臓学会肝臓専門医1名 プライマリ・ケア学会認定医・指導医2名 日本救急医学会専門医1名 日本内分泌代謝科（内科）専門医1名
外来・入院患者数	外来患者 8,142名（1ヶ月平均） 入院患者 3,633名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	150床の病院ではあるが、救急受け入れが多い。標榜科が少ないため、多様な疾患を経験できる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	また洛和会系列のグループホームの往診や外来診療なども含めて多様なセッティングで診療を行っている。
学会認定施設 （内科系）	日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

神戸市立医療センター中央市民病院 内科専門研修プログラム管理委員会

(令和2年4月現在)

神戸市立医療センター中央市民病院

石川 隆之 (プログラム統括責任者、委員長、血液分野責任者)
 富井 啓介 (プログラム管理者、呼吸器分野責任者)
 古川 裕 (循環器分野責任者)
 松岡 直樹 (糖尿病・内分泌分野責任者)
 吉本 明弘 (腎臓分野責任者)
 猪熊 哲朗 (消化器分野責任者)
 川本 未知 (神経分野責任者)
 安井 久晃 (腫瘍・緩和ケア分野責任者)
 西岡 弘晶 (総合診療・膠原病・感染症分野責任者)
 小林 謙作 (事務局代表)

連携施設担当委員 (予定)

神戸市立医療センター西市民病院	山下 幸政
西神戸医療センター	永澤 浩志
京都大学医学部附属病院	横井 秀基
兵庫県立がんセンター	津田 政広
大津赤十字病院	松井 大
京都医療センター	小山 弘
北野病院	塚本 達雄
大阪赤十字病院	武呂 誠司
関西電力病院	濱野 利明
天理よろづ相談所病院	田口 善夫
日本赤十字社和歌山医療センター	直川 匡晴
兵庫県立尼崎総合医療センター	田中 麻理
神鋼記念病院	塩 せいじ
姫路医療センター	中原 保治
倉敷中央病院	山本 博
国立循環器病研究センター	野口 暉夫
兵庫医科大学病院	池内 浩基
兵庫県立丹波医療センター	秋田 穂束
香川大学医学部附属病院	正木 勉
公立豊岡病院	松島 一士
済生会中津病院	岡田 明彦
杏林大学医学部附属病院	福岡 利仁
神戸朝日病院	金 秀基
神戸平成病院	富永 正幸

川崎病院	飯田	正人
甲南医療センター	福永	馨
赤穂市民病院	高原	典子
明石医療センター	木南	佐織
洛和会丸太町病院	上田	剛士

オブザーバー	
内科専攻医代表	2名

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（ジェネラリスト）専門医
- ④ 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

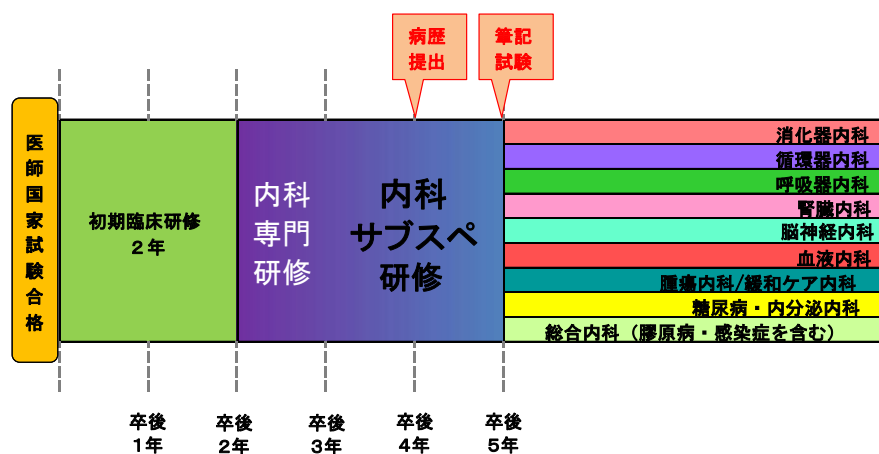
に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養とジェネラルなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、神戸医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また当プログラムはサブスペシャリティ領域専門医の研修を重点的に行うため、より高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整える経験ができることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム修了後には、サブスペシャリティ領域専門医取得のための当院任期付スタッフ採用が可能な場合もあり、また専攻医の希望に応じた他の医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

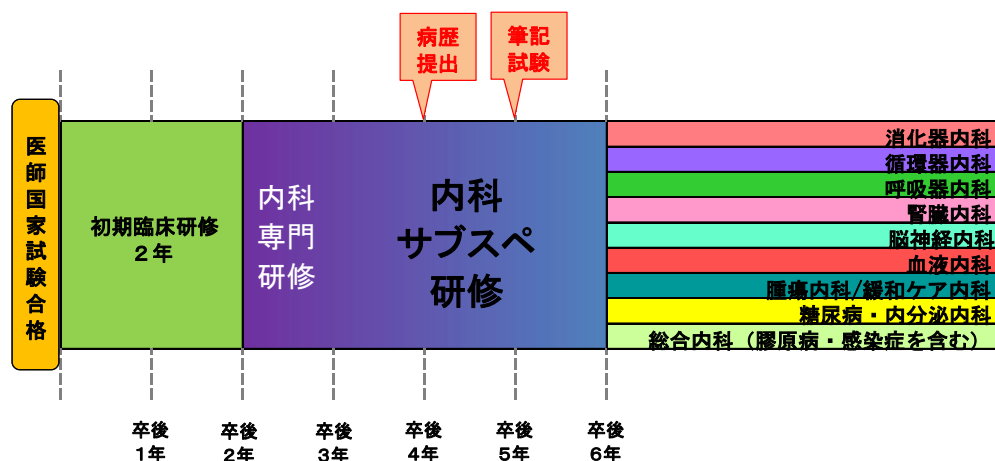
サブスペシャリティ通常研修タイプ（3年コース）



3年間のうち連携施設で（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）の研修を行います。

図 1-1 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

サブスペシャリティ専門医養成タイプ（4年コース）



4年間のうち連携施設で（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）の研修を行います。

図 1-2 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（概念図）

3) 研修施設群の各施設名（P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院研修施設群」参照）

基幹施設：神戸市立医療センター中央市民病院

連携施設：神戸市立医療センター西市民病院

神戸市立西神戸医療センター

京都大学医学部附属病院

兵庫県立がんセンター

大津赤十字病院

京都医療センター

北野病院

大阪赤十字病院

関西電力病院

天理よろづ相談所病院

日本赤十字社和歌山医療センター

兵庫県立尼崎総合医療センター

神鋼記念病院

姫路医療センター

倉敷中央病院

国立循環器病研究センター

兵庫医科大学病院

兵庫県立丹波医療センター

香川大学医学部附属病院

公立豊岡病院

済生会中津病院

杏林大学医学部附属病院

神戸朝日病院

神戸平成病院

川崎病院

甲南医療センター

赤穂市民病院

明石医療センター

4) プログラムに関わる委員会と委員

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P.73～74「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などをもとに、専門研修（専攻医）2 年目以降の研修施設を調整し、決定します。3 年目は不足した研修を補い、不足がなければサブスペシャリティ領域研修をします（図 1）。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院診療科別診療実績を以下の表 1 に示します。

2018 年度 実績	入院患者 実数	外来延患者数 (延人数 / 年)
消化器内科	2,266	44,192
循環器内科	2,209	32,005
糖尿病・内分泌内科	374	19,520
腎臓内科	342	9,796
呼吸器内科	1,546	26,187
脳神経内科	1,132	19,002
血液内科	957	18,500
総合内科（膠原病・感染症を含む）	794	12,539
腫瘍内科・緩和ケア内科	416	13,083

表 1 神戸市立医療センター中央市民病院診療科別診療実績

- * 代謝、内分泌、膠原病領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 20 名に対し、十分な症例を経験可能です。
- * 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修施設群」参照）。
- * 剖検体数は 2016 年度実績 31 体、2017 年度実績 34 体、2018 年度 21 体です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

専攻医 1 年目は希望して採用された各サブスペシャリティ診療科でまず 4 ヶ月の研修を行い、その領域の最低限の診察、検査、当直、外来業務などを習得します。その後、初期研修も含めた経験症例数に応じて中央市民病院内科系サブスペシャリティ診療科（循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科・緩和ケア内科、総合内科（膠原病・感染症を含む）の 9 科）のうち他の 8 科のうち必要な診療科を各 1 ヶ月ずつ研修します。（図 2）この間入院患者を順次主担当医として担当し、次の診療科にローテート後も引き続き退院まで関わります。すなわち主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

希望すれば、週 1 回の内科初診外来を 3 か月以上行うことも可能です。

入院患者担当の目安（基幹施設：神戸市立医療センター中央市民病院での一例）

当該月にローテート先の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医 1 名あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、サブスペシヤルティ上級医の判断で 5～10 名程度となります。感染症、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。

○サブスペシヤルティ通常研修タイプ（3 年コース）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	Subspe※1				ロ ー テ 1	ロ ー テ 2	ロ ー テ 3	ロ ー テ 4	ロ ー テ 5	ロ ー テ 6	ロ ー テ 7	ロ ー テ 8
2 年目	外部 A※2						外部 B※2					
3 年目	予備・Subspe※1											

図 2-1 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（詳細）

※1 採用されたサブスペシヤルティ診療科

ローテ 1～8 はその他の必要な内科系診療科（総合内科（膠原病・感染症を含む）も含まれる）のローテーション。ローテが必要な診療科が少なければ残りの期間はサブスペシヤルティ診療科とする。

※2 3 年間の研修期間のうち連携施設で（原則として基幹施設での研修を 1 年以上、基幹施設以外での研修も 1 年以上とする）の研修を行う。

○サブスペシヤルティ専門医養成タイプ（4 年コース）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年目	Subspe※1				ロー テ 1	ロー テ 2	ロー テ 3	ロー テ 4	ロー テ 5	ロー テ 6	ロー テ 7	ロー テ 8
2 年目	外部 A※2						外部 B※2					
3 年目	予備・Subspe※1											
4 年目	Subspe※1											

図 2-2 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（詳細）

※1 採用されたサブスペシヤルティ診療科

ローテ 1～8 はその他の必要な内科系診療科（総合内科（膠原病・感染症を含む）も含まれる）のローテーション。ローテが必要な診療科が少なければ残りの期間はサブスペシヤルティ診療科とする。

※2 4 年間の研修期間のうち連携施設で（原則として基幹施設での研修を 1 年以上、基幹施設以外での研修も 1 年以上とする）の研修を行う。

当院基幹プログラムの派遣計画												
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
A	西市民						その他					
B	西市民						その他					
C	西神戸						その他					
D	その他			西市民						その他		
E	その他			西神戸						その他		
F	その他						西市民					
G	その他						西神戸					

H	その他		西神戸
I	西市民	その他	西市民
J	西神戸	その他	西神戸
K	その他連携施設		その他連携施設
L	その他連携施設		その他連携施設
M	その他連携施設		その他連携施設
N	その他連携施設		その他連携施設
O	その他連携施設		その他連携施設
P	その他連携施設		その他連携施設

図3 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム（連携施設派遣予定）

8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① J-OSLER を用いて、以下の i) ～vi) の修了要件を満たすこと。

- i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（P.84 別表 1「各年次到達目標」参照）。
- ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています
- iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。
- iv) JMECC 受講歴が 1 回あります。
- v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。
- vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 ヶ月前に神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ、統括責任者が修了判定を行います。

（注意）「研修カリキュラム項目表」の知識・技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年コースの場合は 3 年間（原則として基幹施設での研修を 1 年以上、基幹施設以外での研修も 1 年以上とする）、4 年コースの場合は 4 年間（原則として基幹施設での研修を 1 年以上、基幹施設以外での研修も 1 年以上とする）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請における手順

① 必要な書類

- i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- ii) 履歴書
- iii) 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出し

ます。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇については、各研修施設での待遇基準に従います（P.16～72「神戸市立医療センター中央市民病院研修施設群」参照）。

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、神戸医療圏の中心的な急性期病院である神戸市立医療センター中央市民病院を基幹施設として、神戸医療圏および近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。3年コースの場合は3年間の研修期間のうち連携施設で（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）、4年コースの場合も4年間の研修期間のうち連携施設で（原則として基幹施設での研修を1年以上、基幹施設以外での研修も1年以上とする）の研修を行います。
- ② 神戸市立医療センター中央市民病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験することだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、高度先進医療を行う地域の病診・病病連携の中核です。一方で、一次から三次救急まで24時間365日対応しており、コモンディジーズの経験はもちろん、幅広い稀少疾患の経験も可能です。連携病院をはじめとする地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- ④ 2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P.84別表1「各年次到達目標」参照）。
- ⑤ 神戸市立医療センター中央市民病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、1年以上（連携施設の事情による）、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 3年コース・4年コースとも研修期間の3年間のうち1年間は予備期間とし、経験症例数の不足があれば必要な内科系診療科での研修を行い、その他の期間はサブスペシャリティ領域の研修とします。
- ⑦ 3年コースの場合は専攻医3年修了時、4年コースの場合は専攻医4年修了時で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（別表1「神戸市立医療センター中央市民病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を主担当医として経験し、J-OSLERに登録します。

13) 継続したサブスペシャリティ領域の研修の可否

- ・ カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、専門研修3年目でサブスペシャリティ診療科外来（初診を含む）、サブスペシャリティ診療科検査を担当します。
- ・ カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医はJ-OSLERを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年8月と2月に行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

- 15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。
- 16) その他
特になし

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1名の担当指導医（メンター）に専攻医1名が神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は、サブスペシャリティ上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とサブスペシャリティ上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医はサブスペシャリティ上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。
- 2) 専門研修の期間
 - ・ 年次到達目標は、P.84 別表 1「各年次到達目標」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3ヶ月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6ヶ月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6ヶ月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価修了後、1ヶ月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。
- 3) 専門研修の期間
 - ・ 担当指導医はサブスペシャリティ上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。
 - ・ J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリー作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っているかと第三者が認めうるかと判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
 - ・ 主担当医として適切に診療を行っているかと認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) **J-OSLER** の利用方法

- ・ 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・ 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・ 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・ 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・ 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・ 担当指導医は、**J-OSLER** を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と **J-OSLER** を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による **J-OSLER** を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月に予定の他に）で、**J-OSLER** を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果をもとに神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

神戸市立医療センター中央市民病院給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、**J-OSLER** を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他

特になし。

別表 1 各年次到達目標

	内容	専攻医 3年修了時 カリキュラムに 示す疾患群	専攻医 3年修了時 修了要件	専攻医 2年修了時 経験目標	専攻医 1年修了時 経験目標	※5 病歴要約 提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大 7) ※3
	症例数※5	200 以上 (外来は最大 20)	160 以上 (外来は最大 16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。例) 「内分泌」2例 + 「代謝」1例、「内分泌」1例 + 「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表 2 神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修
(例)

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
午前	内科 朝カンファレンス 〈各診療科 (Subspecialty) 〉					担当患者の病態 に応じた診療 / オンコール / 日当直 / 講習会・学会 参加など	
	入院患者診療	入院患者診療 / 救命救急セン ターオンコール	入院患者診療	内科合同 カンファレンス	入院患者診療		
	内科外来診療 (総合)		内科外来診療 〈各診療科 (Subspecialty) 〉	入院患者診療	内科検査 〈各診療科 (Subspecialty) 〉		
午後	入院患者診療	内科検査 〈各診療科 (Subspecialty) 〉	入院患者診療	入院患者診療 / 救命救急 センター オンコール	入院患者診療		
	内科入院患者 カンファレン ス 〈各診療科 (Subspecialty) 〉	入院患者診療	抄読会	内科入院患者 カンファレン ス 〈各診療科 (Subspecialty) 〉	救命救急 セン ター / 内科外来 診療		
		地域参加型 カンファレンス など	講習会 CPC など				
	担当患者の病態に応じた診療 / オンコール / 当直など						

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム「4. 専門知識・専門技能の習得計画」に従い、内科専門研修を実践します。

- ・ 上記はあくまでも例・概略で、通常各診療科（サブスペシヤルティ）のスケジュールに従います。
- ・ 内科および各診療科（サブスペシヤルティ）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- ・ 入院患者診療には、内科と各診療科（サブスペシヤルティ）などの入院患者の診療を含みます。
- ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（サブスペシヤルティ）の当番として担当します。
- ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。